

TOP Uncovers New Inventor, Impressive Device

by Bill Costantino April 10, 2008

オリオン・プロジェクトが一人の発明家と 驚くべき装置を新たに発見

ビル・コスタンティーノ, 2008年4月10日

([オリオン・プロジェクトのウェブサイトより](#))

斬新なパルスモーター/発電機の開発が現在進行中

きわめて偶然な人とのつと紹介の連鎖により、我々は一人の卓越した先端的発明家との接触を果たし。本人が匿名であることを望んでいるので、我々はプライバシー保護のため彼を **Q氏**と呼ぶことにする。オリオン・プロジェクト筆頭技術顧問のテッド・ローダー博士と同プロジェクト理事会メンバーであるビル・コスタンティーノが、最近2日間を費やしてこの発明家の技術を集中的に調査した。

Q氏はこれまで製作した数多くの試作装置とともに、オーバーユニティ・エネルギー装置のための様々な有力技術を紹介してくれた。そのすべてが巧妙かつ綿密に設計され、機械加工され、組み立てられていた。最も間近に有望視される装置は、一体化されたパルスモーター/発電機 (PMG) である。

“Q”は独創的発想により、二つの独立したユニット、つまり一つのパルスモーターと一つの発電機を一体化し、単独の作動システムとした。彼の設計はコンパクトであり、別々のモーターと発電機を機械的に連結した他の構造に比べ、高い効率を持つことが期待される。

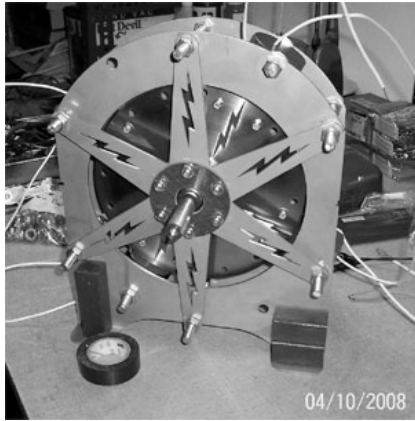


Q氏の工場で作成中のパルスモーター発電機の試作装置を調査しているテッド・ローダー博士

学習と発見の多彩な経歴

Qはとても熟達した、しかし謙虚な発明家である。彼自ら語るところによれば、彼は発明家の遺伝子を持って生まれ、13歳のときから様々な装置を創り出してきた。彼は猛烈に学んだ。彼が感化された人々には、その名前を少し挙げただけでもニコラ・テスラ、ビクトル・シャウバーガー、ウォルター・ラッセル、トマス・エジソン、ヘンリー・フォード、ジョン・ベディエーニ、そしてトム・ビーデンなどがある。

彼はそれまで最も若いヘリコプター・パイロットの一人としてその飛行経歴を歩み始めた - 19歳の時にベトナムでの戦闘任務で飛行した。軍務で数多くのヘリコプター飛行をした後、彼はその経歴のほとんどを職業ジェット・パイロット及び教官として過ごした。約 15 年前、彼は契約研究開発の専門家として、高度な技術的解決策を開発する委託発明家の仕事を始めた。



精密に加工した特殊合金でできているパルスモーター発電機の接近写真

Q の得意分野は高効率タービン技術、発電装置、そして機械設計である。彼は多くの専門分野に熟達しているが、彼自身が認める重大な欠落分野は電気工学である。彼はパルスモーター/発電機の本質的な側面を完成させるため、15 年間を費やしてきた。しかし彼は今、この装置を作動させ使用に適した電力を得る複雑な電子制御を設計し、組み立て、欠陥を修正し、最適化するために、高度な電気技師を必要としている。

すでにオリオン・プロジェクトは、やはりパルスモーターの制御回路に独立して取り組んできた、30 年の経験を持つ一人の上級設計者と連絡を取っている。これら二人の発明家は間もなく、汚染を発生するいかなる化石燃料も使わず、クリーンで持続可能な電力を無期限に発生させる、作動するオーバーユニティ装置を創り出すために協力することになるだろう。**もしそのような飛躍的技術が実際に可能なら、我々は 2~3 ヶ月以内に予備試験により実データを取得するつもりである！**

パルスモーター/発電機は、何年もの間熱心に研究されてきた一つの概念である。この最も有望だが挑戦的でもある実現性という“難問題”に対し、様々な技術的取り組みを述べた発表がなされてきた。きわめて有能で独創的な二人の発明家を引き合わせ協力させることで、飛躍を達成するために必要な決定的相乗効果が生まれることを我々は望んでいる。

最新情報：このプロジェクトでは、幾つかの**心躍る新しい進展**がありました。

今日寄付をし、この心躍る機会に参加してください！

私たちはあなたの支援と関心に感謝するとともに、この私たちの取り組みを広く人々に知らせ続けていただくよう、またあなたにできるどんな課税控除寄付金でも引き続き提供していただくようお願いします。これらのプロジェクトについて進展があった場合、私たちはその都度それを皆さんにお知らせします。

TOP Research Update on Pulsed Motor/Generator Development

by Bill Costantino June 6, 2008

パルスモーター/発電機の開発についての オリオン・プロジェクト研究最新情報

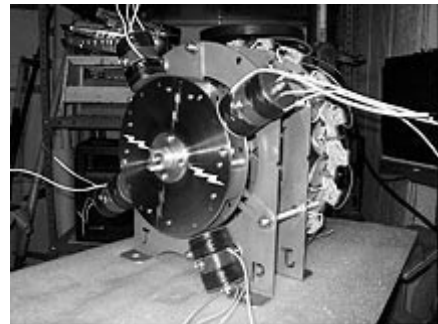
ビル・コスタンティーノ, 2008年6月6日

([オリオン・プロジェクトのウェブサイトより](#))

背景

今年の4月、オリオン・プロジェクトはパルスモーター/発電機 (PMG) 技術に重点を置いた**研究を開始した**。我々はパルスモーター/発電機が最終的には自己出力でき、平均的な家庭や小規模の会社の需要をすべて賄うのに十分な電力を供給できるようになると確信している。我々の目標は、実現可能であることを証明する動く試作装置を開発し、それが紛れもなく可能であることを実証することである。我々は現在、これらの装置を多年にわたり研究し実験してきた研究者たちのチームとともに働いている。彼らは今、原理を証明するための半分サイズのパルスモーター/発電機を開発しテストしている最中である。一旦これが達成されれば、我々はそのサイズを拡大し、適切な出力仕様が満たされるかどうかを確認するつもりである。

二人の主要な研究者が、長年蓄積した専門的知識をこの課題に投入する。彼らの特定の名前と所在地は、プライバシー、安全、防護のため隠されている。Q氏はメカトロニクス・システム設計の重要な技術を提供する。P氏は特別注文の回路設計に30年間携わった電気工学の経験を提供する。5月19~23日の週にP氏は自宅を出発し、中西部にあるQ氏の研究室で開発作業の第一段階を実行するためそこに向かった。この期間中、集中的な100人・時間余りを費やして4シリーズの試験が行なわれた。



共同作業に先立ち、それぞれの発明家は前もって最大限の準備をした。Qはメカトロニクス・システムを最初から設計し直し、その全部品に一定の基準化を施して種々の異なる構造を素早く効率的に配置できるようにした。Pも同様に、同じプラグ・アンド・プレイ形式の試験ができるように、基本的にモジュール化した電子部品を持ち込んだ。

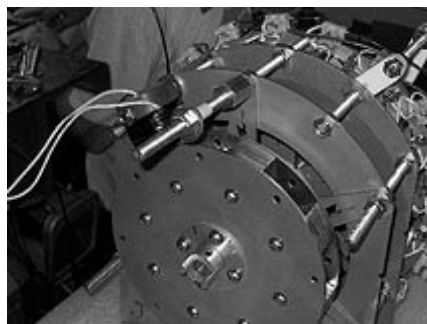
試験シリーズ #1

これらの初期試験の目的は、その制御回路をQがすでに製作していたメカトロニクス発電機と一緒にうまく作動するようにすることだけにあった。数回の調整を繰り返した後、彼らは回路

を制御することにより数百 rpm（回転/分）でモーターを回転させることができた。幾つか別の回路と駆動コイル構造についても、試験が行なわれた。概して、最初のリンダーマン型回転子（磁石を持たない）は、意味のある電力発生を期待できる十分な回転数に達することはなかった。

試験シリーズ #2

試験の次の段階は、リンダーマン型回転子を磁石を持つ回転子で置き換えることだった。それに合わせて電子制御も調整された。この構造は、単及び複駆動コイルを使って試験された。これらの構造すべてで回転が得られたが、意味のある出力を生むには回転数がまだ低すぎた。モーターの速度は磁気干渉効果のため制限された。

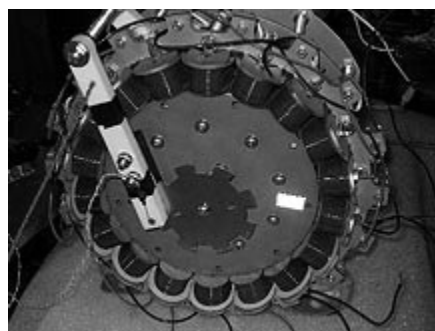


試験シリーズ #3

この磁気干渉を回避するため、チームはこの抵抗を除去できる期待を持って別の巧妙な構造に切り替えた。彼らはそれに成功し、間もなくシステムの全能力のほんの少しを使って 1,500 回転を達成した - とても期待のもてる結果だった！彼らは駆動回路を微調整しながら、系統立ててシステムの能力をさらに引き出した。

奇妙な異常現象

彼らは幾つかの出力測定の準備のため、間もなく上記の構造を最適化し、公称回転数を達成した。次に、彼らは電力制御装置から電源ケーブルを抜いて電力を遮断した。基本的に電源から切り離された今、その回転子は自然に減速し停止すると彼らは期待した。ところが、思いがけなくも回転子は急に加速し始めた - 電源から遮断されているにも拘わらず！ある強烈な電力サージがどういうわけかシステム内で発生していたのは明らかだった。P は彼の 30 年間の経験の中でこのような現象を見たことがなかった。そして現在、これを説明するのに途方に暮れている。電力サージはあまりにも強力で、重要な電子制御部品に損傷を与えた。このため、試験は中止となった。この電力サージについて何か断定的な主張を述べるのは早すぎるが、この効果はきわめて興味深く、さらに研究すべき正当な根拠となることは明らかである。

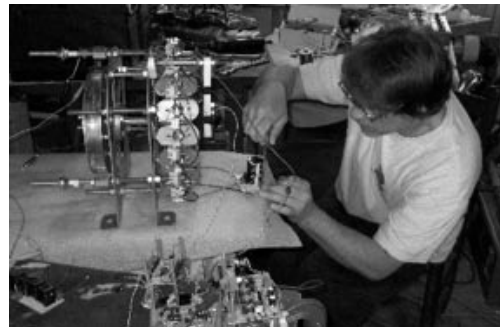


試験シリーズ #4

装置を再編した後、チームは他の電気部品を使って上記の効果を再現しようと試みた。しかし彼らは問題（複数）に突き当たり、その加速現象を再現することについて一貫した結果を得られなかった。その一方で、彼らは新しく回転子の回転数がほぼ 2,500rpm という高速を達成した - これもまた期待が持てる進展だった。駆動回路をさらに微調整できれば、モーターはもっと高速になり得る。

次の段階

チームは次の実験計画についてすでに合意している。唯一の目標は、あの異常な現象を再現することである。ただし今度は、さらに精密な観察、測定、そして安定性を追求する。P はあの異常な現象について何か知られている説明がないかを調べるため、電気部品メーカ（複数）と連絡を取っている。次回の試験予定週は 6 月 23～27 日である。



パルスモーター発電機開発作業の第一段階で電気制御回路を改造している P 氏

引き続きご注目ください！

今日寄付をし、この心躍る機会に参加してください！

私たちはあなたの支援と関心に感謝するとともに、この私たちの取り組みを広く人々に知らせ続けていただくよう、またあなたにできるどんな課税控除寄付金でも引き続き提供していただくようお願いします。これらのプロジェクトについて進展があった場合、私たちはその都度それを皆さんにお知らせします。

Pulsed Motor Generator

Edited by Dr. Ted Loder and Bill Costantino.

パルスモーター発電機

テッド・ローダー博士とビル・コスタンティーノにより編集された

([オリオン・プロジェクトのウェブサイトより](#))

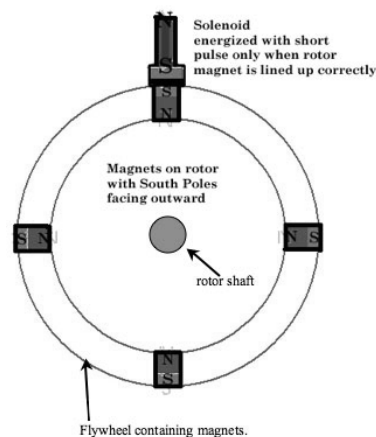
背景

多くのオーバーユニティ研究者が、パルスモーター特有の性質を利用することを試みている。オリオン・プロジェクトは、最終的に自己出力でき、平均的な家庭の電力需要をすべて賄うのに十分な余剰電力を生み出せる装置の研究に着手した。パルス永久磁石モーター/発電機 (PMG) は、そのような装置の一つである。

我々は今、これらの装置について研究し実験をしてきたある**研究者たちのチーム**とともにこれに取り組んでおり、現在その原理を証明するため、半分サイズのパルスモーター/発電機を開発中である。一旦その原理を証明する信頼できる試作装置が得られたら、我々はそのサイズを拡大し、より大きな出力仕様が満たされるかどうかを確認するつもりである。以下の説明は、この技術について人々によりよい理解を与えることを意図している。

説明

パルスモーターは、通常の交流または直流型と異なり、モーターを駆動し回転させるために短時間のパルス電流を用いる。モーターの回転する部分は回転子と呼ばれる。概してそれはきわめて重く、弾み車として機能する。そしてその周囲に等間隔に配置された複数の永久磁石を持つ。これらの磁石は通常きわめて強力で、異なる様々な構造に配列することができる。右図の例では、すべての磁石が放射状に外側を向いている。



固定子は回転子を取り囲む、モーターの固定部分である。それは一つまたはそれ以上の電気コイルを持つ。それらは回転中のある瞬間に磁石とコイルが一行に並ぶように配置される。コイルは回転子の永久磁石と正確に一行に並んだときに電圧を印加される。これにはきわめて正確な同期が必要で、それは通常ある種の電子制御回路を用いて実現される。

電気コイルは通常、短時間パルス電流により電圧を印加されたとき、反発力を生じるように巻かれる。これは回転子の磁石を反撥し、それに回転を与える。短時間パルスにより電圧を印加

された後、電気コイルの周囲に形成された磁場は次に減衰する。それが減衰するとき、コイルの中にある種の電流が生じる（“逆起電力”と呼ばれることもある）。この電流は小さいが重要で、利用したり蓄積したり、あるいは別の用途に向けたりすることができる。

この電流は、入力された電流から抵抗と熱損失を差し引いたものに等しい。これこそパルスモーターに取り組んでいる大部分のフリーエネルギー研究者たちが活用する、パルスモーターの特徴である。

理論上は、回転子に回転トルクが生じた後、これらの損失を引いた入力エネルギーを回収することができる。だから、パルスモーターに生じたトルクは“フリー”エネルギーであり、部分的に回収される入力電力に上乗せして、電流やトルクを発生するのに利用できる。ここが困難なところである。パルスモーター/発電機が最も高い効率を持つためには：

- 損失を最小限にまで小さくしなければならない
- 逆起電力は完全に補足されなければならない
- システムを駆動するパルスに供給する十分な電力を生じるために、トルクを効率的に利用しなければならない

パルスモーターの回路は二つの主要機能により構成される。

1. モーター回転中の正確な瞬間に電気コイルにパルスを供給し、回転トルクを生み出すための制御電源回路
2. **逆起電力**と他の巻き線コイルを通過する磁石によって発生する電力を蓄積し、電力を生み出す回収回路

従来の交流または直流モーターは、エネルギーの回収を考えずに、一定の割合でただ電力を消費する。パルスモーター/発電機と取り組んでいる発明家たちは、利用可能などんな小さな逆起電力も回収することに鋭い関心を集中させる。この目標に近づけば近づくほど、彼らは“フリーエネルギー”モーターの開発に近づいていることになる。もしそのようなモーターが実現可能なら、それは発電機を回すことに使え、それにより家庭、会社、または企業のために“フリーエネルギー”を供給することができる。オリオン・プロジェクトは、この最も有望な機会に取り組む、有能で多面的能力を有する発明家と科学者たちのチームを持っている。

この説明は、一部ロバート・G・アダムスの特許にもとづいている：アダムスの切替リラクタンスパルス直流永久磁石モーター発電機（英国特許、GB2282708）

（訳：廣瀬 保雄）